

1. 調査報告概要表

作成日 平成20年1月22日

【評価実施概要】

事業所番号	1072700493
法人名	タクミ工業株式会社
事業所名	グループホームベルジ川場たやの家
所在地	群馬県利根郡川場村生品1823-1 (電 話) 0278-52-3080
評価機関名	サービス評価センターはあとらんど
所在地	群馬県前橋市大友町2-29-5
訪問調査日	平成20年1月18日

【情報提供票より】(19 年12 月10 日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	昭和・平成 15 年 5 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	12 人	常勤 10 人, 非常勤 2 人, 常勤換算 4, 6	

(2)建物概要

建物構造	鉄骨 造り
	3 階建ての 階 ~ 2 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	55,500 円	その他の経費(月額)	円
敷 金	有(円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 300,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有 無
食材料費	朝食 410 円 昼食 450 円 夕食 440 円 おやつ 円		
	または1日当たり 1,300 円		

(4)利用者の概要 (12 月 10日現在)

利用者人数	9 名	男性	5 名	女性	4 名
要介護1		名	要介護2	5 名	
要介護3		名	要介護4	3 名	
要介護5		名	要支援2	1 名	
年齢	平均 81.7 歳	最低 65 歳	最高 95 歳		

(5)協力医療機関

協力医療機関名	ほたか病院 ほたか医科歯科クリニック
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

管理者と職員はホームの基本理念(5項目)を、朝礼や申し送り、かかわりの振り返り等で触れ、共通理解をし、意識して実践に向けて取り組んでいる。利用者と職員は家族のように和やかな雰囲気与生活を共にしている。職員は生活上で利用者一人ひとりの力を役割の中で発揮出来るように、役割に応じた場面を作り、達成感の持てる支援をしている。地域との付き合いでは、利用者と職員が共に地域の文化祭・お祭り・老人会と保育園の芋の収穫・ぶどう園・リンゴ園等に出向いて、地域との関係を深めたり、築くように取り組んでいる。
--

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 鍵をかけないケアの実践について、安全面に配慮しながら時間帯により(午後1時~4時まで)鍵をかけないように取り組んでいる。運営推進会議の行政担当者の参加については、現在も会議に参加をしてもらえないので、引き続き参加依頼の働きかけを行っている。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) サービス評価の意義や目的を全職員に伝え、全職員で取り組むようにしている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は定期的に開催をしており、事業所からの状況報告を行い、参加者からの意見や要望を聴いている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 運営推進会議に参加をもらい、親睦会を開く、年1回アンケートを実施する等で家族からの意見や要望・苦情等を聴いて運営に反映させるようにしている。また、「何でも言いやすい雰囲気づくり」にも配慮している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域の文化祭・お祭りに行く・老人会と保育園の芋の収穫に参加・クリスマスの時に手作りの物を地域の高齢者に贈る・散歩時に挨拶を交わす・ホーム前の畑の持ち主・ぶどう園・リンゴ園・理髪店など、利用者と職員は地域に出向き、親交を深めたり、築くように取り組んでいる。

2. 調査報告書

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	基本理念(5項目)を掲げて、地域との関係性を意識した『地域社会と共に歩む家』という事業所独自の理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は朝礼や申し送り、関わりの振り返りの時に必ず理念に触れている。職員も常に理念を意識しながらサービスに取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の文化祭・お祭りに行く・老人会と保育園の芋の収穫に参加・クリスマスに手作りの品を地域の高齢者に贈る・散歩時に地域の人と挨拶を交わす・ぶどう園・リンゴ園・理髪店等で地域との関係を深めたり、築くように利用者と職員は共に取り組んでいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価の意義や目的を全職員に伝え、全職員で取り組むようにした。また、前回の外部評価の結果、施設は常態化せずに、時間を決めて開放するようにしている。運営推進会議に行政担当者の参加はないが、事業所から参加依頼を継続し行っている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は定期的に開催しているが、事業所職員と家族の代表者で行なわれている。事業所からの報告と家族の意見や要望を聴いている。	○	運営推進会議は、利用者・家族・地域住民・地域包括支援センターや行政職員等、幅広い立場の人の参加と意見交換が目的である。事業所は会議の意義や役割等の説明を丹念に行い、地域の人々の参加への取り組みを続けていってほしい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は運営推進会議録を届けに行く等、市町村担当者と連携を図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	来訪時に暮らしぶりや受診、金銭出納等の報告をしており、電話等でも行っている。ホーム便りを月1回発行し(個別の写真や一言添えて)送っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に参加・親睦会・年1回アンケートを実施する等して、家族から意見や要望を聴き、運営に反映させるようにしている。「何でも言いやすい雰囲気づくり」にも配慮している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の固定化に努め、利用者が馴染みの職員による支援が受けられるように配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修や外部研修では、職員の段階に応じた研修を受けてもらい、資質の向上を図っている。研修報告を行い資料は閲覧し全職員で共有している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス連絡協議会に加入し、情報交換や意見交換・研修等に参加し、同業者との交流を行いサービスの質の向上に取り組んでいる。また、地域の事業所とは利用者・職員が訪問をすることにより交流を深めている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人・家族に見学をしてもらい、お茶を共にして、事業所の雰囲気に馴染んでもらうようにしている。また、体験入居してもらっていることがある。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者一人ひとりが長年培ってきたことを、職員は日常生活で利用者から教えてもらう場面が多い。また、そのような場面が多くもてるように場面作りの工夫や言葉がけに配慮している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの思いや意向を表出しやすいような雰囲気作りに配慮し、思いや意向に添って個別に支援をするようにしている。利用者の一人ひとりの行きたい場所を聞き、計画を立てて実践している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族には日頃のかかわりの中で、意見や要望を聞き介護計画に反映させるようにしている。日々の個別の記録を活用し、課題となることを職員会議で話し合い、介護計画の作成に活かしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	モニタリングを3ヶ月に1度行っており、定期的見直しは6ヶ月～1年となっている。状態の変化に応じて随時見直しをしている。	○	安定している利用者の場合も、月1回程度はモニタリングを行い、本人や家族の意向や要望を確認してほしい。また、職員の情報や気づきを反映させて介護計画の見直しをしてほしい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人・家族の状況に応じて、通院・送迎・買い物・理美容等、必要な支援を利用者一人ひとりに合わせて柔軟に行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望するかかりつけ医になっている。また、受診や通院は基本的には家族同行となっているが、家族の都合に合わせた柔軟な支援をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や看取りに関する事業所側の方針を入居時に説明を行い、文章化されており、状態の変化に応じて、医師・家族・事業所等で話し合いを重ね、随時意志を確認しながら、納得のいく支援をしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報保護法の理解や情報漏洩防止のため記録物等の管理保管がきちんとされている。利用者の誇りやプライバシーを損ねない対応に配慮し支援を行っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	買い物や散歩・ドライブ・お茶会等、利用者一人ひとりのその日、その時の気持ちを聴いて、できるだけ個性のある支援を行うようにしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	畑で野菜を育てる・食事の下ごしらえ・盛り付け・テーブルを拭く・配膳・下膳・お茶を入れる等、食事の過程を利用者と職員が共に楽しみながら行っているが、一緒に食事を食べているのは一人だけである。	○	食事作りの一連の過程を一日の大切な活動のひとつにしており、利用者と職員が楽しみながら行っている。一歩進めて、食事を共に味わいながら楽しい雰囲気づくりに取り組んでほしい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日できる体制になっており、利用者の希望やタイミングに合わせて支援をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の下ごしらえ・配膳・下膳・テーブルを拭く・洗濯物を干す・畳む、花の手入れ・掃除等を利用者一人ひとりの得意分野で力を発揮してもらっている。ドライブ・散歩・おやきやうどん作り・生け花・書道・芝居を見に行く等を相談しながら行っている。嗜好品(お酒や喫煙等)の楽しみもある。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候や利用者の状態に応じて、散歩や庭掃除・花摘・買い物・ドライブ・戸外でのお茶会・畑仕事等を季節に合わせて日常的に行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	前回の外部評価の結果を踏まえて、安全面に配慮しながら、午後1時～4時は鍵をかけずに支援をしている。	○	今後も利用者の状況に応じ、鍵をかけない時間の延長を行うなどをし、自由な暮らしを支援するための取り組みをしていってほしい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は年2回(昼間と夜間想定で)利用者と職員共に消防署の協力も受け行っている。系列施設、近隣者に協力体制の依頼をしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	委託業者により食材、献立等を依頼し栄養バランスの摂れた食事であり、利用者の好みも工夫をして取り入れている。食事や水分の摂取状況は記録し、職員が情報を共有している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関に季節の花が置かれ、観葉植物・鉢植え等やホール内はソファ・書・季節の装飾・利用者の似顔絵等が飾られており、落ち着いて居心地よく過ごせる工夫がなされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビ・箆箆・椅子とテーブル・人形・ぬいぐるみ・位牌等が持ち込まれ個性ある居室造りになっている。		